

# 魔法の町

ポムビジット・サイコーン  
日本語・日本文化研修留学生 ラオス

私が和歌山に来てから、すでに8ヶ月が過ぎ、滞在期間が終わりに近づいています。9月にはラオスに帰国する予定ですが、この町での経験は私の人生に大きな影響を与え続けるでしょう。今、この文章を書きながら、心の中では「必ずまた戻ってくる」と強く決意しています。

和歌山を初めて訪れたのは2022年のことでした。私はその当時、まだ僧侶としての生活を送っており、JENESYSプログラムに参加するために和歌山を訪れました。和歌山城、うるわし館、紀州漆器の町「黒江」、中言神社など、数多くの歴史的な名所を巡る機会を得ました。静かな町で、歴史と自然が調和しているこの町の印象は、今でも私の心に深く残っています。時間がゆっくりと流れるこの場所で、私は「また戻りたい」と強く感じるようになりました。

その後、僧侶としての生活を終え、私は新しい一步を踏み出しました。その新たなスタートの地も、不思議なことに和歌山でした。現在、私は和歌山大学の日研究生として、再びこの町で学び、生活しています。

和歌山大学は、海と山に囲まれた自然豊かなキャンパスを持ち、静かな環境で学ぶことができる素晴らしい場所です。大学では、外国人留学生をサポートするさまざまな制度が整っており、私は文部科学省の奨学金に加え、住宅支援や生活オリエンテーション、メンター制度などの支援を受けています。また、大学の学習管理システム「Moodle」を初めて使いましたが、先生方の親切でわかりやすい授業のおかげで、すぐに馴染むことができました。日本語の授業もレベル別に分かれており、自分のペースで学べる点が魅力です。

特に印象に残っているのは、国際交流課のスタッフの方々の温かい対応です。来日前から出発後まで、書類の準備、住まいの紹介、生活相談など、細やかなサポートをしていただきました。留学生にとって、このようなサポートは本当に心強いものであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

さらに、私が和歌山で最も感動したのは「Win Concord」という学生ボランティア団体の活動です。彼らの活動は、単なるサポートにとどまらず、私たちに貴重な経験を与えてくれます。和歌山のさまざまな場所を訪れるツアーや地域住民との交流を通じて、私は自分自身を深く見つめ直すことができました。Win Concordの存在が、私にとって大きな支えとな



り、和歌山に再び戻りたいという気持ちが芽生えました。

もちろん、留学生としての生活には困難もあります。日本語の壁や文化の違いに直面することもありましたが、和歌山では常に誰かが助けてくれました。和歌山の「本当の強さ」とは、表面的な便利さではなく、人と人の距離が近く、温かい優しさがあるところだと感じました。その優しさが、私を支え、日々の生活を安定させてくれています。

地域全体に目を向けてみても、和歌山という町には、他の場所にはない魅力があります。私は日常の中でも友人や周囲の人に、「和歌山は魔法の町だ」とよく話しています。暮らしやすさ、便利さ、そして心の安らぎが、ここにはすべて揃っていると感じているからです。

「何か食べたいものがある?」「どこかに行きたい?」「病院、学校、保育所、高齢者施設はある?」そんな質問に、和歌山はすべて「はい」と答えてくれる町です。美しい山々、川、そして和歌浦の海辺でのんびり過ごしたり、船に乗って食事を楽しんだり、温泉で癒されたり、神社や博物館を訪ねたり。どれもが日常の延長にありながら、まるで物語の中のような体験を与えてくれます。

そしてもし大阪や奈良に行きたくなくても、心配はいりません。和歌山からは電車一本、わずか1時間ほどで行ける距離です。都市的な利便性と、地方の自然と安らぎが、見事に調和しているのです。

生活面でも、物価は比較的安く、静かで落ち着いた日常が流れています。人々は優しくて温かく、すれ違うときの挨拶ひとつにも思いやりが感じられます。緑豊かな自然に囲まれ、海辺のカフェで過ごす時間は、本当に夢のようで、時々「これは現実なんだろうか」と思うことさえあります。

このように、和歌山は私にとって「魔法の町」です。便利さとやさしさ、美しさと安らぎが共に存在するこの場所で過ごす日々は、かけがえのない宝物です。

そして今、留学生活の終わりが近づいていることを感じながら、この町でのすべての経験に深く感謝しています。9月にはラオスに帰国しなければなりません。和歌山での生活は私にとって人生の中でも特別な時間でした。和歌山という魔法のような町に出会えたことを、本当に嬉しく思っています。また会える日を心から楽しみにしています。



# The Magical Town

Phomvichith Xaikhone

MEXT Japanese Studies Student/ Laos

I first came to Wakayama in 2022 as a Buddhist monk through the JENESYS program. From that very first visit, seeing places like Wakayama Castle and local shrines. I was moved by the peaceful atmosphere, rich history, and natural beauty. I felt time moved slower here, and in my heart, I already wished to return.

After completing six years of monastic life, I started a new chapter as a research student (日研生) at Wakayama University. The campus, surrounded by sea and mountains, offers a calm and supportive environment for learning. I received a MEXT scholarship, along with housing support, guidance, and kind assistance from both staff and professors. I quickly adapted to the learning system thanks to their help.

One of the most meaningful experiences was connecting with the student volunteer group Win Concord. They gave me not only support but also opportunities to explore the region, meet locals, and reflect on myself. Their warmth inspired my deep attachment to Wakayama.

Life as an international student wasn't always easy. language and cultural differences were real challenges. But what helped me through it all was the kindness of people here. Wakayama's true strength lies not in flashy convenience but in its gentle, human warmth.

In daily life, Wakayama feels like a town that has everything schools, hospitals, nature, good transportation (even to Osaka), beautiful cafes by the sea, hot springs, museums, and more. I often tell my friends: "Wakayama is a magical town." Peaceful, affordable, and full of heart sometimes it feels too perfect to be real.

Although I must return to Laos this coming September, I am filled with gratitude for every moment spent here. Wakayama has become one of the most precious parts of my life, and I promise myself. I will come back again someday.

*PHOMVICHITH XAIKHONE*